

第 159 回 番組審議会議事録

株式会社エフエムしみず

日 時 令和 5 年 1 月 17 日(火) 午後 1 時 30 分～清水マリンターミナル会議室
審議委員 望月紀久朗委員長、伊藤公一委員、岡嶋基晴委員、大塚 泰委員、新井映子委員、
青木真咲委員、山本三智子氏(小堺委員代理) 以上 7 名
エフエムしみず出席者 堀川恵司、西智樹、佐野勝美、是永真由子

【審議対象番組】

マリンパル年末特別番組『台風 15 号が残した教訓～その時、どこで何が?～』

放 送:令和 4 年(2022 年)12 月 31 日(土)午前 10 時～午後 2 時 生放送

番組進行:石井秀幸、山下ともち 中継レポーター:由奈 取材:スタッフ全員

内 容: 清水区内を 13 ブロック(学区)に分け、住民や企業、団体、教育関係者など総勢 80 余名にインタビューし、それをベースに台風 15 号の実態を検証。

なお、NHK 第一ラジオ(全国放送)で元日放送の新春特番『ラジオではじまる 2023』内で年末特番を採り上げるという副産物も生まれた。

<堀川社長挨拶>

昨年 9 月の台風 15 号災害に際して当社では発災から 2 週間余の中で 25 時間以上の防災情報・支援情報を発信し、現在も継続していますが一定の手応えを感じながらも市民・区民に寄り添う放送局として改善する点はあるのか?南海トラフの様な巨大な自然災害への対応は大丈夫なのか?など点検を進めているところです。審議委員の忌憚のないご意見を伺いながら、万一の事態に備えていきますので引き続きの助言をお願いします。

＝年末特別番組『台風 15 号が残した教訓～その時、どこで何が?～』を聴取＝

(審議内容)

<望月委員長>

例年ですと「ゆく年くる年」的な番組を作られていたと思いますが、今回の番組はある意味斬新で異例とも云える番組だと思います。短い時間の中で大変多くの方の声を集め、編集し、4 時間の番組として放送するご苦労は大変なものがあったらと想像出来ました。委員の皆さんのご意見をお願いします。

<青木委員>

80 名以上のインタビューというのは非常に労力のかかる事です。生の声を超える事実はなく、時間をかけて積み重ねた色々な地域や階層の方の声を聞かせて頂き全体像が分かりました。

一方で、教訓という言葉がタイトルの中に入っていたのですが、美談で終わるのではなく、より大きな災害に対して私たちはどの様に対応したら良いのか?こうしたものが課題ではなかったのか?という視点があったらより良かったと感じました。又、これも私自身を振り返って、支援する方と支援される方双方の意見が聞けたことは良かったですが、それ以外の多くのグレーゾーンの方、例えば同じ職場で被害にあった方に対してどの様に支援したら良いのか?や今回は清水区に被害が集中したのですが、葵区・駿河区との連携はどうだったのか?等非常に悩ましい課題と反省があったらとと思いながら聞いていました。

<大塚委員>

現在、庁内でも「何が出来て、何が課題だったのか？」等の検証を行っている段階です。取材に際して行政に対する意見等もあったのではないかと思います。もしあったとしたら、番組で取上げても良かったのではと思います。今回の番組は、取材に時間をかけていますし、記録としても大変価値のあるものですし、活用させて頂ければと思います。

<新井委員>

お訊ねしますが、同じ質問を異なった方にしたのですか？或いは自由にお話し頂いたのでしょうか？

<事務局>

全ての方に対して9月23日深夜から24日未明にかけてどの様な行動をとったのか？という視点を中心にインタビューしました。大規模断水などに見舞われながら大きな混乱もなく乗り越えた清水の強さって一体何だろう？と考えました。又、被災しながらも温かな手を差し伸べるソフトパワーの大切さがいざとなった時に生きるのではないかと考えました。

取材を通して行政に対する意見はありましたが「行政への批判は次に繋がらない」との判断から番組では、取上げないと決めていました。

<岡嶋委員>

先ずは、時間を置いて放送した事が素晴らしいと思います。と云うのも、ある程度時間が経過し、落ち着いた中でその時、どの様な行動をとったのか？を取材し、改めて放送を通して広める事が次に繋がり、どの様な対応を取ったら良いのか？考えるきっかけになります。

インタビュー中心でしたが、最後に纏めというか、振り返り的なものがあるとリスナーの記憶にも残るのではと思います。

<伊藤委員>

これだけのインタビューを収録し、限られた時間で纏めた事に敬意を表します。

私共も、紙媒体の広報誌を発行していますが、11月号で壊滅的な被害を受けた農家の様子を取り上げました。しかし、当事者からは「農園所有者が分からない様に掲載して欲しい」などの声が寄せられ、非常に苦労しました。声だけですと、内容が軟らかくなり、今回ラジオの大切さを痛感しました。

これだけの貴重な素材ですので、大学生がハザードマップと合わせて被害状況の画像を掲載していました。そうした他メディアとの連携を考えるのも一案かと思います。

また、今回停電・人的被害もなく断水被害だけでしたが、同報無線で給水情報を耳にしたり、口伝えで知ったり、ラジオで知るなど案外アナログが効果的だと思いました。特に、高齢者にとってはSNSを見る事もなく、行政無線とラジオが連動したらより伝達手段として効果的だと思います。

<山本さん>

清水で生活し、今回被災をしました。生々しい声を聞いて、当時の事が蘇りました。

地域密着の放送局ならではの内容だったと思います。商工会議所青年部の人たちが駆け付けてくれましたが、ラジオがきっかけになっていました。

<望月委員長>

清水にとりましては七夕豪雨以来の久々の災害でした。大規模災害になれば、正確な情報がより大事になります。SNSも良いですが、エフエムしみずを聞けば正確な情報を掴むことが出来るという位に準備を整えて頂きたいと思います。これからの運営をお願いしたいです。

<今後の特別番組>

□清水エスパルス サッカー中継

開幕戦 2月18日(土)or19日(日) vs 水戸ホーリーホック

ホーム試合を全試合中継予定

□新静岡市誕生20周年記念“静岡市はいいねえ。”キャンペーン(仮) FM-Hiとの共同企画

3月20日(月)～4月30日(日)の期間で実施。

4月1日(土)午前10時～12時 生放送『拝啓 しずおかを愛した家康さま』(仮)

FM-Hiとの共同制作、同時生放送

次回の審議会を3月15日(水)午後1時30分～ に決め、閉会しました。

以上